源氏物語

うきふね

太政官文庫
和三
三〇冊

内閣文庫
番號 和 32334
冊數 30 (24)
函號 202 353

内閣文庫
和書
類
號 三三三三
冊 三〇
函 二の二
架 二段

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]
[illegible]
[illegible]

まどろまれぬるあけぬるや。こゝびいの義ぎょうちとけてまゝぶまれるさそそれて。ぬちもれいなるぶうて。ぬるをぶいいとおそろしくまれへつゝせ結ぶんとくいちくくまれどそのほど家ゐむへなりそん。そのいあ面ゐりぬあべそれじちぶありよべ（ぬ）のれくりをもあけてそ。おをいいくなくされど（たを行）ところばそそこといぶ先ぬ結ぶ。我ゐちどくいぬくれまれまとくのゐりけんおされうゝ行より藤ところをそれはまくるくりぶりへべてゐるてゐるひゐる今いりぶりのゐちまゝ我をくゐゐゐをぶるれ結い

ぶりけりぶつゐをくとゐちるあゝずるといゐゐをゐてゐくゐ面。ワゐをゐぶのゐゐぬいゐぶくぶゝゐれ色いゐ（ゐ青）りワれど。けてもくゐべてゐるぶ。ぶぶろくゝゐをくゐぶゝゐんまれとぶ。ゐぶりつる人のれ心ぶ面をゐをいゐるゐつゐゐるくぶゐるくいゐぶ。めれゐ中中まれもぶぶでゐぶいゐ面ゐをんくくとぶいゐれけり。家（白ん）ゐもいゐ例ゐるあ乳色ありゝれ色りいゐゐちふゐるん我をゐすぶゐあひゐゐ面ゐぶゝおぶゐゐゐりゐのゐゐくゐゐびれぶ人いゐゐれんゐゐやゐんゐぶゝ

ゑとて、れつひありぬ。あうぎちかき所とゝ程なる
白仮
ゑて、れ文まえなるべいうるぞとゝ女とゝへ。
仮 下寸行
ゝへのこゝのひ紙ようを結よそれば柏も光て結ゝ。
ゝれまゝらへもおつゝまゝありあればゝれ
結へぐいなぐまゝよあゝりてゝあんまどひ結といゝ。
白仮
ゝゝるもゝくゝゝるゝめとのゝゝて、ゝゝゝうゝとゝぞ
白仮
ありめぐくゝあんとゝゝゝせゝゝるゝゆ光ゝゝあばゝて
いゝくあゝゝいゝぐゝつぐ。ふゝもゝゝゝゝぐ。日ごゝゝあや
ゝゝゝとのゝゝゝゝゝぐ。昨日のゝゝりゝゝゝは。ゝゝゝ
げゝゝゝゝて。ゝゝゝもゝゝゝゝげゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝけゝゝ時方行ゝて色色ゝゝゝ

ゝゝくゝゝひゝゝけゝのゝゝゝゝゝゝ時方行ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

時芳ん
いとおしとは世間もうとうでけるくて、ゆうつるめく
やうすきひとくいさつつあ面すてゝ
やこれどゝりわるとうまやつれてだすれ清まそ
きこれが人なほく立さはぐて、こゝひやゞて（ほを）おくあ
すうちもぐいうを（時芳ん）くゆちもあきまく芸石
をとまうてこゝちこれどもえあはず（左を付）こて今もの
きしず、なきあぐん四ちもきでちんさるこゝひ
どりこてくもこちより語りあえこゝあこく
いこきこゝり（時芳付）さりとてくあ面つるくてこいぐ
面なん今一面ざとをきちまひこれが作居ぞ
あひこゝりこゝ（筆付）ぶあこまこゝくあ面ゝもあへめこ面

まてこゝを結ばこれがいこゝどゝいふこゝもあうず、美の
やうまてこれもくまどひ作ゝこゝこゝせこまへ
すこゝ四ちものどめ作てちん目ばも面芸こゝう
つゝこ面、和いと心ゞこゝとこ芸くまこゝ貴稲
ちども芸こゝを作べこゝ、こゝみけゞこゝひちど、人のいこ
作ゝほどこゝて、今一こゝび立こゝりまへこゝひてゝく
こいこゝゞ、ちこゝもちくこゝゞのこゝてめれと
ちるべゝ、あを付おゞこゝやいゞこるまゝおゝてまゝめる
こゝりこゝまへむちゝこゝをゞこゝとこゝあゞかひ
ちくこゝちこゝも有れ、相これこゝこゝまこゝてこゝ。
あこゝ面ゞこゝまひいこゝしこゝかひあこれこゝ面を

ミ堂ん と おゝゝゝ ゝゝ ゝゝ

衣のつづくりかけるはのもとに四五人ばかりあるもの
ありさまはいとあはれなるまゝに人もうくのもとめれと
ちゞもそこゝめとりもちりそめたりしかはいとうつ
くしうしたるいそぎたちてしばれこと（後白河）とて人をれめ
さはなのこゝろとかけるくあるれとさうえさ
のもりしはれ心ぞれけるちるべしあさましうて
心ぐるとるくちるめるやうちるれいくうろも
まどひはひくくさくいひてけるもあるりと
さすがにまはちるばはのあるは心（四方）ぐるくさくて
さしいのどうるあるんちるはるはいとこと
そぐこうやう也今れいけうもおりまちもと

人とあれこゝとかおいまこゝ人のもりこゝろ（後白河）
さもんもちるされしうはは中こゝりでこゝされすくきこゝ和
べきこゝくちるれどもこのびはしこゝもちるれいまこゝもも
きはこゝでやまきはくんちるんれ心ぞこゝはるぐこさ
こゝはくこゝげこゝうをこゝうこゝを人こゝ
こゝをこゝこゝこゝろげこゝまぐこゝこゝすをぐこゝんこゝ
こゝぐまれこゝこゝまこゝこゝ和れこゝへぐこゝくこゝぐ
のこゝやまは

あれいそぐ　ちりつるまぎれよ　母ぎみのつくりのみへ
さらよいそんくるもるくめれまへはるくなりあ
らんるるりさは　いそぐくとをもれつるまてらぐ
ひあはるるるりこれいはいるもつることそとまぎるみか
ろっとぎれまぎれあるりていらぐう地を治みん
ちもろこれば分とるげ治へんとるをもるるば
君やらひつてんそるるめくもれやうもてあ
らんひて地ぐりのあやちき地のまれそひは
うさやうるるるもいみなりしをいづさていれ
なそろてとをるゆるあるるるはあるるどあてさ
はめれとやうのもれや　やうむへ治べしとるてめ

ざゝしづらてたづらしろ人よやあゝとだもるを
とうゝびゝ今まいりのゝんまゝぬやあるとえべいと
せどるれしりとておりなるあひとゝこゝて
くるるさるゆもえをぞ今とくまいゝんといひてか
ひみをのそれいそぐべきるゆどもるどつぐつて
入り出給ゝとてゝまとゝりあるへどゝをこを
るくていと人ずくなるるりよるんをろう給後
などゝそゝぼゝろれはそゝきゝいでゝ身とうるひ
てゞゆるどなるさいり給ゝおりくれあるさ海うき
とをきのへるゝをとをるるゆるさうげるとゝるれすをひ
うまへ所ものゝ坂のをさまあるるとみつけて河の

をとみやりつゝひゝをさのゝをるあれとをとをくく
ゆもうゝと海ゝくゝるゝとをつゝをてうをゆひをん
へどゝとくいひをはゝをていゝくまくいるるるる
をよなるり給よをんとおゝゝうをゝうんゆいとれ
ゝれるゝといひあゝをて思ひしるゝとをてゆはん
るりをるりてあるゝゝるゆるゝゝゆおゝゆをてるをき
いるるをゝ給へりるゆいゝやゝうをゝかどるるあ
とゝあるれゆるるるをてゝうくいるゝくゝおゝゝつるれ
ゝとゝゝもどるへゝるゝぐゝゆゆまゝどひ給ゝ海ゝすゝるゝあ
るるゝめるゝをゆゆゝむゝるくゝるり給ゝる人とをゝゝう
をるをゝゆをゝあゝるゝをゝれゝるれゝゝるゝ

袁さこそは日ごろもへバさまようれあるじ、ゐ給ふ
て、今ハ世の常のしとぞてまつくろうんとうとひてきの
びてあり、しうの海とうとゆうよ、いまひとまるしう
えいひやうびゝ（毋ん）とくんちもまどひつゝさいこのいと
あらまほしとおもふ河はちどれうを始まろうとぞ
まゝ、ゝ秋もおちへめべきさうしてあり（汀）まし
にうんうとゝとゝづゝてうとゝとまちぐちくた
さめんとのゝまへど、さを（左を汀）にるまれひ結らじ物
ゐもまゝめ大海の原よこそおりましまけめさ
海もはうゝ人のいひてうへんことというとうとうく
しとうきこゆれど、毋ん
とうとうう海はゆもよひ

乃きさのがうんうしていうまくもべきさ方
を杖ぼ結ゝめをゝそれ人ぐ（左を注）ゝうして車をせ
ゝて、おまりぞもけぢうつひ注しれでうど
どもみるぐうぬぐさとそれのへ海れ山をまるどや
うれはどりいれてめまとごこの大とそれぞれがと
ちのあぐうれでしのむうまりきるどもよま
ゆきうう老法師なるどれいんこうもうべきうぢり
して人のなくちうけひまねびてうごし
いうをめれと毋君もいとくゆしとか
まろぶ大丈うどぬりなるどどゆうしものだも
まりてはうそうれとい義（業）ことのようとうを

なりてはさぶめられていろりそつうまつりえ
ちどいひられど（太平記）ことさらこうひすぐをまぶい
とものびてとものやうあれバなんとて山車を
ひうひの山乃まへあるいやりて人もちうを
まをぶこれあるいちうしまう法師のうぶりして
やうないとちうくてちういなてめ物うの人ども
ハ中こうぶこと、とくちくまくまるこうとなな
どかくすうはなりられバいとあやまり例のさ
かうなどあうるすどもしちなりぶげをぐちく
あへるくてちられぬるすうれとそーアとられぞ
（くそあうとし）くへはちうへいどとちうへくちるん京けへい

ちあるちうるどさ海ぐくよあんやちうぶいひうる
（なをん）かぶ海へどもれいひおるふとぶよつてまりさと
まりてものこうこうてくこれるさ世中よ（世）おれ
ひうりようくもるくうせ給ようとうをめうぐ
あるくずおるはうこうぶるすもあうんと（白）ぶるる
おるすぶはるくひるてさ海へのおりたはをば
ちぶーこそちのぶとちもおぼさ先つるハうれあ
らぶーみさぶめて文（白）をうこうぶひ笑て給ぶ
いうちうへうあてうくうんるどぞおぶーちん
うーいうさ給てのはすくをはいとけうくおう
へのげうるさうげようちうぶれうとやうこうれ

給ふんとさへばこゝにれうちちるとゞのをけさ
あいてしりつるまゞひまゞにれもみそてつる
おそくちゞめ向かいきめはいさうゞでるゞぞ
角ぐうりゝゝまゞしへてはゞれまもきづやゝゝ
しさ海とも深てんゞで今はうゝのさちめ
べきことゝとゝ人ゞてまゝゝめさんはれいとく
おりうゝべきるすゝまゝべしとゝ山人おりぞ（おを伝脱）おう
くんのとゝそひゝればまてくしゝゝゝ大角ばは入
道の家（蓋）ちのやゝ給ゝれば石山はこゝもり給てゝゝゝ
給比叡ゝゝり（蓋）ゝて（蓋）いゝゞ（蓋）ことゝばゞつゝのうゝば
しゝれゞゝゝぐしゝうさなんとゝ人いるり

ゝればうゝはいゝゞきゝとゝまゞれ使のなゝさを
人めまゝゝろうしゝとゝみゝうゝ人ゝんまりて
ゝゝくゝとゝゝさゝれば（蓋ん）ゝさまゝしゝさんゝしめく
れ使ゝれゝのはいまゞつゝめてまゝりゝいゞれ
ゝとゝゝくまゝゝみゞゝゝものすゞゝゝくゝゝゝゝ（女三ノ）
給ゝとゝゝりゝゝゝゝかゝゝはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝりゝればんゝゝべのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
しゝゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

しあもうしさるどうけもつまりさ大夫（仲信の）そ
の給入りは使のさうまつけくをいとぐいうぐき
まさこてんうさるるさすどもあれば毎ごあるぐ
におぐーれうぐりとうぐとまてぐうぐーしうを
いくへやうぐるうめ。我（恵心）ハ紙いとあへるくいうぐと字
給まも心うりうりとうろうな思るどやもむん。
ちどて今までさう而まも人へうつうん心ぐうう
そぐのまぐれあうやうちうしをくくるうち紀
しうまうろやもくてぐ（白すう）へもいひをく給ちうちん
ーとぐふまもづがうゆくよぐうぬこうろのこうや
ちくれむいくくそくう給（恵）るやませ給あうちまかく

給とおぐーみぐうくもううてあれが京よりうれ。
（恵二）文のけうさるまもつうう給りぐとくちさかどうう
も待うねどゆーしれうと紙ちううう給れぞ
心のうぐれ給うかどもい海くもうてちどうう
給てつうきをぐうくいうぐさ世をなげき給。
あうーさ海うちいとあいぐやうつさおうーう
ーけうくひちどのいうぐく来くくうれーうれぐうう
の世まちるどうくーまぐいれぞのどうまてをぐー
ちん。ぐいまかうまうぐちぐめんうさるうきまーまく
やうきうとのうぐーぐうぐ海うとのすぐまうけ
てぐうぐうおぐべうすくせぬうう海うとまうく

ちざいしうしゅ申されしのやうにくれいの人にて
ものごしよりはと伝るどのゝくしとみ給まや人のゝを
をこさせんとて伝れたる方便（たうづん）は悪（ぞひ）ともくきて
やうはこをいあるれと、とつづけ給つゝそこるひと
のこし給うれ文（白）をくまして二三日は拙もおぼく
給ぞうのしゝ心をもるきちまてうちなりはもの
れけるとんるどさうぐよやうく涙つゝ給て
おぼしもづまるうしゝ海いこひし
ういらどくをひいぞられ給ろ人りは毎ごれ病（やまひ）
乃をもさ海をのこをみをてくすごろちいや
れそしさちせどとうしうくもてうすと

四十三

おぼしそれどものづくいとちうれがいろな
海とはかくおぼしまどひは命もあやうきまで
もづと給ふといふ人もありられぐられ苦も
いとくこのれそしさとて給ふ苦されぐよる我
ようそれ文ようりのこうはあぬ成ろうみのてし
ろるるずさおぼしぬべうもしへぞうしなどづへま
しうぶたぐちちりハ我あよおこちうこをを
ぢるまゝとおぼしもなんこがはしもすて
しさひちちし給ろ文（白）のはとあひはひよはば
まいり給くぬへちく世のさうぐとなれる代とく
ちさこうハるこぬとひよこちりぬて年ぐざんも

ひがごとをべしとおぼして、あり給ふれしろ式アて
文をとりこゆるもうせ給ふとれば、はをぢのおくまで
つまをまびなるもこころのうちは喜ばしきそへられて
つきづきしく心ぜうしおもやをていとぎ海あ
うしきるまもなく給へり人ぐまもりいでたちやう
ちうクどれなり文ナ白ふ
ちなればうときさんはこそあひ給へ みやのうち
まも側いり給へるハ射面し給ひぬあしび荒て
給をんもあいなくてまもり給はつけてもいとで
海のまづをさざきをおぼをぢ給ひぬ白月おぼろく
しきこころちまも給へぬとこれ人へつきしぼき

病のさ海なるうとのこと拍をそれぐ心ものもこゆをおぼ
しちりぐがいとくるしくげよ世中のつねなきを
をんぐがそくぐ必待うとの給てそしのごひうぐう
り給とおぼをるみぐはれやぐそこうぐずり
おうればいとくるしきるけ毛ぐかるしびしもいぐ
うちうち給えんたぐやくしくごろうはよるやん
ゆくんとおぼすもさりやたぐこれるをのこた
ぐに聞ちうりうちうりうん我をいるおうし給
ちうひし給ん他ま月ぐおぼしけうつんと思ま
まこ氏君ハうるしさは方給へうとこうるくもをろう
ちうる拍のちちよなぐぼゆう時ハいとうるある

ようをてだよ[illegible]とぶるれ[illegible]るさてるもも海
されてそうるけれぢかくすぢろまっろ
ろうさまつをてもそしんをえそんまいみだろ
ア畑れあれもろぬんうもあびせ世中のつもな
きっと紙ちそそ[illegible]海人しもづれなそと。うう
やまくもっろまよくもおびうう畑うまれ
ぐらいあれりこれまひひそんさ海もお
ぐやはまうえぞうしともうちまり紙やう
やう世の畑紙写し紙まいくそうてしもいあしびと
おびして苦汚りうろまそあておびもさこて
うをぬっとのこう紙うぐりハびをくのき

四十五

ぬまへられしと今ハ中〻の上ちうまうり
て紙うまして[illegible]れいとまるるさはありさ海まて
んのどうまおりまれおりも紙ねば毎ぬるまよ
それっとうくていえさまみいびそころとうくて
すぐ紙てなんむしれ流ぢ山望まうな
くてうを紙ゆ人のおるぐゆりなう人ぞをね
所まは紙りとそうつけ紙て時ぐまでみつべくやを
を紙へしまおいなく人のそうまも紙ぬべうし
おり姫しうばこれあやしれ所まをさ紙しと花
さくまりてうるるまるぐみうれもなまびひ
うりとおひまのむ心まっとまるてやあうそん

とハみなつれどやんごとなくものくるきすぢよ
ゆゑ〻まへいこそあ〻めみるまゝごとなるとゞも
ゆ〻しなどして〻こゝろやすくらうしとおもひ
侍つゝ人のいとゝうるくなりゆくるゝべてよせの
あうさ海とゆゑ〻へつゞけゆくまゝにくなんさ
うめやうもゆくゝうんうとそいつものそなるゆゑ
あれもいとゝうハみしくこそまつゞおこるうとゝ
つまどこゝろぶれそもてい〻いくとあゞさたゝしきに
いゝくうみゞりかるゝとあやしくいとおしと
おぼをどつれなくて〻いとおりれなるゝとゝこそ
はゝかのうまさて侍ゝうるゝこゝゆべくもも

ひ侍りるゞゝつゞゝとく人よゝゝゝゝ侍りぬるゝとゝく
侍りうばなんとつれゝゝくのゝうまへどいとゝうへゝる
ゝればゝとずくゝるゝておりて〻まゝさはゝうゝゝてもれ
らんどゝゝゝゝゝやとゆゑ〻へゝゝ人ゝなんをのづゝら
ゝゝやゆゝん〻ゝゝもゝゝうゝゝゝゝべゝゆへゆゝうば
ゝゝどゝゝゝゝゝ

きもうこうまつみてこうはうちよりちごりそてふ
いまの世ふいごひおりをざりと足結人とても
ものめなうぶさ海ぐまつけてうぞうちるよひと
とをうさてこれはいこうろとつて人をさは
ぶてぶ法ど強まうりうへとみちくはさへぐい
うれひとをおぼをゆうちのはこうちのあやまりは
そはあううれ我もかぐうれ分まて時のみどよ
はしをめをもちをうちるぐこの人はらうこれ
がゆうこうはをうりやはうまて今ひとおぼ
ゆうふ心とのどめんうこうなくもあうれうは
をこうりふうらどをものどれどう海ぐは

ちひみぐれて人まを石はあうぶれをうれ結あう
とうちぶてはうこうまへう後のちくあめ
をひとちれくしてぐうと中やはいぐう
はうんといとおうくあへちくあてれをとくを
くてうかうあうはなどさやうの人はいてと
あううとおるひてうとそぐうりうんうるどこて
うづうちくおぼをおぐつうみうもうぶうるうさをあ
ヲうんう海もうづううちうう海ちとおぼをどなのが
ごうりしはうんもびんるいうさとうさてうう
ふへうんもふぐうちるどおぼうはうふ海うて
うあぐはつううもとおぼ出はは内ちを書いを地

あくれはおまへちうさたちぎのうれたうしさは
時鳥の二こえだちうるさてわちうそうそうと
ひとりごちなもあくねがきさの家よこうにわちう
なにはなりうればうちうぐれとおくてをてうさて
蓋
ものびねや君よなくくうんうひもあさぎぬ
あまさまこころかよそで白仏中女君はれさ海乃いと
浮三
ふくまくうとあくれとおぼして二ぬなぐめなれ
ヨなりうりげしれあるみうれとみなて
白
ちぎぎのうちあういかくくざれあう
ちそうそうくべうされ。ワづくうとうさなな

中山 如君 白と浮ふ

よ　ことの　ろ　ひきかれうて　ほ　ゆて　ろう　表
よあさまし　れ　ろ　ゆ　ろ　ほ　ぐ　ま　つけて　ま　ま
ゆ　ろ　ろ　ま　ま　我　ひ　ろ　ま　ま　ま　ば　今　ま　て
ゆ　ろ　ゆ　ろ　ま　や　れ　も　ま　つ　ま　て　と　心　が　ろ　く　ま　ば　ま　を
家　白山　を　ま　れ　ま　ま　ま　ま　ま　べ　ま　て　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
れ　ば　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま
ま　ま
く　表　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま

いづもいとおほきさにまづきさとをおもほして
ぐるまとくさぐるまとにのりくたてまつれどもてり
そてはおりはしこよれくれるたいざうを
ものいはて舟よのりはしけひのおてようつく
しうちうしとちるどをもろこしろづのたにくく
表ものたは近あひていとうくもとりもとく
のたりをてはは彼よなんものりさつといへばいはさち
よんもあやしといひもりんまつまくまいり
てもだちぐちくこそてめしあそうむぢち
もれそこしさもべきさんちもしはぞこれはいみ
そてくあうこはまなんとんよいひちそんも

すこしまつりうりめべきひどよりてこそん
ちりかの令はうばいこそうもづまうんありり
なんおほをどちくとまりげよいと義のやう
ちりしりまどもうこりはしまほしきといひ
てくふいうぐくべくまあず大丈もるこそて
まこれは中のこと こまりよちりこそてさせはしず
池のこちろもちりはうぞちぐぐこぢひちきはん
ぢとみこそまつりはしうばもぢちをもなるハ
いそぢてしもこそてうけはうんつおよハつう
まつべきあこちまこそとをはへしといふひな
くこちるしれはこと れのちハづさこれはいぢも

中〳〵みさまうてゐるんとうらふ。ひざとは車
ちゞおばしめゞ〳〵てゞそまつれあまへ海を。
むゐ〳〵ていとくおうなんいまひとゝろ
まてもまりうまへといへば。なを後の君よびいでさは
まり給へといへぞ。給はて。なのまゞとゞうはゝゝて
ちをむゞそてもはゝれはいとのゐゞまはいでゐ海
せ給ひぬとといへば。男君ちやませ給はひゞゝまゞ海ぐ
のはつ〳〵しゝどを給めれど。いみあへさせ給まゞれ
はゝ〳〵ゝきまなんゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
を給てもゝそおり〳〵まゝゝめ。御りのはいくゞくな
らを。はに一和まゐりのへとせもれば。ぎゞうぞあり給へん

しはゝ海もいゝゝひ〳〵ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ちゐん世まゐいみまゝん。ゝゝ海ゐりまゝゝゝ
てまりゐゐ。ゐゐゝゝぬゞもゝてゝひゝゝてゝ
ひゝゐゐゝちをいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まりゝをなゐへゐまゐまゐゐゐゝゝゝゝゝゝゝ
ゝれゐゐゝをなゐゐをまゐゝまゝゝゝゝゝゝゝ
このゐまゐゝのゝゝてゝ給はまゝ。人ゝれゞ心まゐ
ゝゝゝ〳〵まれをなゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ちゐゝくゝなんゝゐ。白仏文はこの人まゐまりとゝゝ
〳〵めはも表なり。中女君まゐはあまりうゝてあれゞ字
え給へゞ。ゝん殿ねおゝ〳〵まゝてゐる殿まおゐ〳〵給

へり。白河あるんさぶるどくりうどハせ給ふ。後白河ぼうるげるーにまそれ教なさ給しさぶあや
ちさまでことずくるよおばくとのもれし給て。
いうどとおばをるもとも人ようちいで給こという
くまれてそとのこ申給しけるやの給をくこ
とも給らば。義まをくんづるさぶよおばし
うくんとハどうまへぞたん給ーちどくうう
そこゆきバまんていというどうさうべきまて。
ともうくもあるまーよりもいうどうり柏をうちて。
さぶあるまおばをうんとおばーやるこれをうう
けてをさとあたるまーうどうづとうきうへばんち

ーー給へどうひるーー白河みをとやきうーたうひ給し
ちどよちどてめとーこて後白河ぎりうんちどぎ教ひと
ようーうひ望ーあるす。後白河えん者寒教ようきつけるへうし。
母君の西ーとちどをうを西なるどりの柏ともれ
らんどぎりーー人も後白河むつまーく表よおばさうれば。
白河弐もとまあれうーあるるきをもてちうべくやを
のるへばさてにうーんまつけても柏のこうるーう
んとあるへれば今うれれをてちどすでーてと
白河きこ西又もまのれちどこの人をさへあうばおばを。
あ有へうよれ院ノ宣旨をまてまうけさせ給
へりうーのを一ようひ衣ぎを一ようひ

をとり抽はをとり世話をする婆ばあさんとも
なりうれどおぼろくしうりめべれば
それ人はなほぎろ行ちうりおぼろ(後ん)ろもるく
ありてぐうとぐまれあるを人をいうぐうんず
ずろはひつしさワざうれとさはるれぐいう
ぐはをとくくうんをとかうまびてこいり
つれぐちるまるこ面うい面ぐうしし
あつあうとぐまれそもいうぐうちるくさう
ぐくもいくうりつ。ちあつめろ地どもちれば
ろうれぐくはこれをいうぐうかくうんちぐまて
つぐひひりだ(恙ん)ねどのもちる後いとばつるる。

なるしあまりてかつ(完)てうとうの行うるとかの
うとぐうさいひあついいるうちぐうこてこのう
ろさこのれもうはこそめんうるひうめうて
まぐさあつひこれゆうはつけてこれをのく
ひつはいとうくおうきくわうは仏をうべ
まて後世をのく楽しる心ぐうきまのうぐひ
つはこうくすうあうりうぐあばもうを考て
出て(恙ん)ぐひれうを面もうぐうくうくうぐれて行つきうぐ
あさまうくうれうればいくのうもすくうなく
ちるめずぐしてくこつれどうぐあへずはし
ひうちるいうるうこうちうそうはいうるうくうちる結

まことにひさしき尾ぶ（たをふ）ども乳色にそめられいづれも
ちくあるを結ぶんを中くらにそめもとにひて
ちそくんにそこちるくれめべしあやしきものの
すぢまをそぐくもめづらしいちひしが
くまあやうるる世乳色よさしむひちちてし
るてといちんくいちんとちひまうちしこば
ともつをれつづくうばくれいさしき海の
ちぐもに紙にそしけ（さん）あさまうばしけめすぢ
ちるに地まぐだりの結びばさる（汨）あぐくばば
ゆりれちべてのひとものさいちをもちるちく
ちずちるに結ちちりしへいぞちか

おどろくちちさといちちべちぞいちるちさ海に
ひ人ぐまてちているちあんと此心もちぐれ
まうの人ぐ文（白）もばしちばきちちいく
ちちしちの貞結もちれちつちちんん
けしひいをのづくちめべちをちくかりまち
ちちちつけてもちるしくいちぐちちをみ
しまれ人へつぐひておちちけちぐをちちちへぐ
れちをちぐてうをちち人やあれをけんち海を（差汨）
ちちる人紙をちちるりちおまひてそむちち結
ちといちもあくぐちんちちいちやうちまちち
まちちひちちあちてちちけざいし結

きん紙ちんえきんぎまでとくのさまへばいとく
おしくされどもとくにはづくしてそをのづ
ここをめしけんまくしりあぼさま海るでおひ出
ゆうしへの世ごるれこるれすまおのらいいと
ちくまれをのこはぼすめりしこどむさるよもく
おつまをを行ここを結よまとこりのれ分の
ちぼさをへるぐさめ結つこころのどちるさ海
ゆてばぐもこをきをめべこやうこいしくと
のこいとるをていの結ちるどあばしつるめり
しをそのれはいこるすべさ海ようけこ海ろ
こくぎも行しこくてこまつへどまくれしき

こここの人いこぐさいれくこ山もうこして
こころゆさこうこうこまこてつこせ結ちんこくを
いくちるここまへしこころこめれせこそこ
行こるるこれ海おちるどつこまけるまれども
ゆ海こちらこぐこしこるちるどつまめあ海を
らこくこるどよて地のゆしずあこくこきお中
べどものおやこきさ海ようるこ字ゆうこぐど
行しをそのの後久ここれせこそこちども行こざう
しこここうこきまちるとのこいけちるりし
ぼどうりこちをを人ずるいでこちるきんと
のここうづこちあけ結海ぐの中こちうこくの

人にしられるありさまにてがいるこころげんなど
をまむけてなんつるるげさ給しそのすぢう
かよひるべとをうとくやの人へうるうえ侍ぞなん。
君ちぐのうしろもとさもいさかあるうちろも
侍ちる抱をとりてちくさ海もいつてそれがいうちう
ろうとうもまぐれつるれうろもうきてきあ給
ゆず紙に心るゆをもまうをゆずげそうちるさ海う
まてちるれうう有侍るれいがおばつるるとおもあ
りもいまちうて人のうろをくまぐやを
ちさ海るまてちるてゆく来ちぐとをこのどう
つすぐしつうををうるうるうち給げんうて。

中しつううるありけるとゆゆれ今いくぐる
いとどとをへぐゆ人のうをうばうてあうめうのれ
うとよいつううありそあけんさやうちるうけけ
てやいとうるる人の心をまどう給ちれば
つるあひこをあちげうきよゆをもうしるひ
ゆうるとちんさふ抱以人紙ゆ見さうるなくし
そとのゆへがうるうそいうてゆてそれやいく
いとちうそいと心うをうをうめうけうる
うそへ侍れ出をもううありへ侍あれ
ととちぐあやすうひてさのづうをうめけん
このゆのうへのれうる志のびてつうをのうう

しをあさましくこころけめほどりいりおそし
ありしるぐいつそぐこころ紙をこそしきを作てぞ
こせ結るさいそれるとぢめてこれあやしく作
三条ノ大臣
有るつくこせのりしるそのあとをとまるぞ
ぐとおぼしてやこまをいでこころを活けん
さぐひ二月ざくりとづれ雪ときめへし
山文いいとくこびく作しうぜけんじいるく
こも作こざりさいとこぐけるく中こうて
あるやうるぐぐたとちぐ雪ときせしこぐひと
こび二こびや雪ときを活けこれりかのことハ
こめへずくこうこうこうぜいえんこうぜあて

白
家とぐぐくあこれとこひ雪てもいづ形を
こすぐるとろうるここざりけるほどよいこあるこ
ひうあるくこるげるりしこうこそこの水の
りうこをこうこそうりこるりくんこういづ
こうるこうこるりすへぐこまこうばいこぐうるこ
せるこをいぐこうるこずかこさ谷をこまこめ
いぐまこいいこぐこれこうさ水のりこざりれここれ
河のうこまこうぜこいこいこいこ雪こ
表こぐこそめこりここまこあここさやまこぐをり
こりこる今いる心こうこそこれ星のこをこぐるえ

さくまでさきちらし給ふ家のうへのあひだより
人びとつけさうしさんゆうさびつが
あやまちをしるひつるへるくさまてもいふ
そくのるゑろびうる行まて後のうちこもい
とあやしくくさそぎて走るけるありとこそろ
ゆずりつるをくそくしくこそ給ふちんいうる思め
らんさうりの人のまてふくめでこうし
人をあびうこそいうるずしもそうらぬ
我ゆりまいるうくのうけるちんとぞ女
るうんうちぐろびいとあくあぶも
けうびといふこはあるまでれどれとも去

四九八

人うもあれバのぼる給ふとて車のうちをかくして
けまどれ前にぞ給けるもこうれバひと
ちげさまのトうけをかうまてとづりる給
うりいまはうをそうんこもうるべしと
のうみめぐうしみて
我もまうさうるとあれうてバられやど
うまのげをうれうん

あぐりの面も律師ありけりとてこの法師
のことをきゝて念佛の僧のぞうへなるべ
きを法けこいとゝもつぐべきあるべせば
ろひべきとそすべきを日くる強仏く
やうすべさうなるこゝ海のまてゝいとゝ
うけりあるよりうり法もおくまちうばこゝ
くんやいとのこゝろんおまえをうそこをきせ
うまくれどいとゝもくゆくしさまとのこゝ
きづこそいくぶもこのくれぶはれけてゐん
うけがゆゝて法くあるこゝでこゝびもあても
立うり法つずたすべうくひくうり法成る

弁行

弁

けうこくやまう水のながれさゝやうごりいろろ
のゝこゝはざのてゝうをぞるゝぞ〇どゝりよけう
こゝおさまりくもやゝぬうれいうるゝ由
そいづれのそこのハけをまつけんちどやう
ろちゝおすゝ接無ぶい海ゝるようむべゝこむすめれ
ゝとよりゝてゝこゝさはげゝれいの家ゝもえ
いうずゝどゝろちう接わのゝて心すゝこむりも
ちゝよゝこれもいうるゝんゝあへゝどゝうゝる
うゝそゝりゆゝこれゝえゝうゝずのゝりのへゝの
うへもゝえゝずゝれまゝひてすゝゝ大わゝうり
れ使遣びてあり地ゝしめ心ちもゝゝれゝ

四冊

あゝれちうおゝさもゝこゝゝいまゝゝこゝゝしゝ
ゝへゝを心れゝどゝうゝず。ゝもゝゝゝ心ちゝて。
まいていうるやゝこゝより由どゝれゝゝんやそのの
ほゝゝすゝゝつゝよゝゝるゝて日ゝろまへゝるけう
ゝゝとゝるんゝれゝつゝるゝゝゝゝいゝゝゝのゝどゝめんゝるゝか
くのゝゝゝべゝるをゝゝひのゝれゝゝまゝもゝるゝゝゝへゝずゝゝゝう
ゝるゝりゝはゝうゝるゝゝずゝゝうゝへゝゝゝゝゝゝゝもゝうゝ〇めゝん
ゝゝゝゝこゝ由ゝゝゝゝさゝのゝゝゝれゝつゝゝひゝゝゝれゝ大ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝりゝけゝゝゝゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ちるごとくよつのてもろもろ波をすれ男じまる
やうの後人をれどもさて生へおきるさへども
あるをなほやりのつうまうんまも必うまうミ
さべくちんちるど云紫ものもりいくこうもいむ
まどさげどひるれば上うもれはるばるど
いひるてきめて義びすへうり波毋ちりく
なるいうどこくるまるれはる命をこうくム
さまへるげさはうもうあはきどくこまへべり
けうやとちんどうどろい心ばそさありう海を
ミさまへるどこれい数ちるめミのをこうり
心へるしつうこうけるさ心ひとくをり

四十五

するちるくこれこ男をはるいよひちるく波
こそくも星のちどりもいく心うくるくちん
海ぐうこれしさ伊ぐ命のびはりていま
ちどうちるどへはしばちとうおこ男はるべさ
こそこ心ちるうつけてもれまへの洞ちれ
はてえこそてをやしばちるどうさうれつひうり
ちべてのうくちるどいこどうこうほどうおあ
心うもすべれば氏まるこそまへと心どして
はうりけうこうさへいのあびうちのおうこさ
ちるど紫ようれて車ここのうはこれいちの人への
れ心どるうこそどうをそげり義こはうんど

さすれば（生霊）すぐろうつされたる（源氏）
くしぐしあひはりくしぐしびていとうくく
ちびのこのすておかるさまもものしまぞ
ぬきとれうがいとうもしうさまぐうぶるあ
ほどいかいとうづうしうにんまりゆんるは
ちうをはしでおやしうさまどもとうかまいうを
はてうさうをんとるんはしはつうとうはけう
こうちうとるさゆうりひつびうそあうべうれど
んうぐうもはぐうりあの人の姫ぎみやいそれう
うべうそうをうりばうんをぐ人のそうち
ぐさうとはうう人うあやしうさあせうりあり

（常陸）
うちうちぐとまちおうこうびあはうりれうん出
姫ぎみ
ちりうりうくへのひうんまはけうもてうの
それうはけうべくあうりうあうさうべうあうあ猛（ひう）の
ゐをいうぐうるうてうんうやのうろう
れうれゆりうをはもうしうれうとうしう
ぐうりうりいいうるしぐ涙うすべううくはばうが
（三条家歌）
しううはひうちのううううううをうう（常陸）ちりうも
うくておゆうるうるんうもうぐうりうぐうしうる
いぐくうるんはしうちうぐありのまうもうをう
ぐりうればうりうううさうはまうておうまうんうういひ
けうを（母）うるうぐ（伊勢）ひうへまうて後のいぐくありてうぐ

ちうきんとさけのぼる。くれど。今いくさんも
あいなくて。おりしも。後ちうくうる。大ねぎのれ
ふことをうり出てこすれば。常陸ヒタチ
日ちうびもれもでする人をうくて。おどろきあくして。
うち色しくいつくめでさきれさいをすて。常陸ヒタチ
うせるけう人をれをのれもとのぐすてまいり
つうまれどもちうくめうつひ給ふもあく。
をけるくあしする。後ちうりつるもれぜのこと
ぜきれちうふれもしくまんなど。
ちうこぶをうるまる。田んぼ 修ノ おそをまいうぐと
なりまるうまびてちうる。常陸 うこもとちんあちうる

けう。常陸ヒタチ 法ノ ちうしをくせこ中こうちうるさびを
人ちもこぶるのべさうもあるばうし。ワグ
あやまちうて。歩ウびつるもいなり。田と おぐこんと
ぜするちうちん人のそをちうんびよ熟ひちと
ぜばしけう。字十九日のワぐちぐをそを法ちをいう
ちりけれこうるはくあばをびとてもうくても
つこうまぐこくちうれば。いとこのびて。武ぶて。徒師のこ
寺ようてきそを法けう。六十俗のつをちぐ熟ちう
をそられちう無ぶもきいて。こぐもそへちう交白
ちりいちをがもちる。ちうものつぐすこれ
ひれてのちう人へこぐむひぐちう熟ちうワぐ

そ[illegible]法師なを心ざしてもてなされば、そこ
ろもとめ人へいでくるんちゃいひげ髪のひと
ぐもじつまりきこゆるあまるまうおやしく
とともをざりつる人へのこてとくあつうをまふ
されちゃんといまおぐろく人のこおはうう。
ひくちれこそこそて心もちるくあうぐりをうるん、
あやしと人ぐこけうあ将法を常陸介のようまもていうしこ
くきをもじとくまどひ家のうちよりあるあはいすくを
くまろうこちこそれうぐりをもちひべこそうぐり
あれいとくあやしうりくうり。これは法事の思ひ
いうやうこはしこれどけこひこちるさをこそる。

いかこうこまうふ我身とちるこびくもあるあ人の
れすくちりくりとちふこやのうへもず程しく法
七僧のまへのくをこそ法名り今ちんこうこ人も
こまうこうりくれ門まで今上ふ
あうぐりけこ人を文ようこまりこてこうて
こそ法けうくりとあうこうのうへの白ど者
心のうちちりぐうちうくあやまくちりしれ
されけうよぐこてていいくいこぐこれどあぐ
ちるれこそいちぐこむやちるぐころこのうこも
やうくはりこうれ飯いうくこうりもちてちるのや
うやとはぐこてのこうのうへをこづくまをあてもれ

いふひちさくとすれどうあげず。始の文の
れくやうづくの御ぐへ行くておりまする。二の文
ちんぜんよりあり給ふけうをもくまりてつる
うもまり給ふ。これ白家さうぐまくもれあれ
ちうまくる。一ふの女のれくるをちぐさあざうる
しあふくうくへのくちぶ
のうりあはう。丈若の
くくくくも給ふ。小寧相の女ノ女家へ
くくげちりくうくをあるの人とあれう。
いちうくうくをくちくすけ琴
いまくり。文とくさ地ちいひるもうしあるめしを

四三十五

ちんくへうけうこれ白家も幸びいくさ地ようあて。
例のいひやづりのへぐ。小寧相ちんぐくうくしもめづくしげる
くはちんくくろづくくひくさ面ちを。若ちんまめ
べいすくへくくくちうあすちんをけう。
小寧相ちんくもれちんぐしくうを面もくくうれぐしのび
あまりてくくくくくと
小寧相
あくくれくくくいへをくれるぐ数をくめ
御ようくくくうぐちくへくくし我と御ようくくくうぐゆへあくうみう
くくくうり地若ちんタ言くちめやくるはぐをいと
くくなくくくくていひくうもまくうぐ
若
つくちくくくくせをくうう言ぐる人乃

とうまでちぶさやいはする（蓋）それとうとびて（蓋）ありしし
ありしもいとぐちんちぶいひよりちうの人は
いとくちづけるまれくしげしてちべてう
やうちぶどもちうしのうあ人（小字有る）ぐもやむどく
ちるさいとく地ちうるさすまるちうつぼちぶ
いひてさげくほどちるさやとどくちよりのの人ぐ
つくいくあばゆれどさすがあまりひげ
してもあでいとくうちぶども地ちうどもうちう
さん（字）うへうもこれいい心ようさけそひてもあうれ
ちぶてくさ（字仮名）出ちうけて我もとのうち
も地とく受法人（女一宮と仏名付れる）れあすぢいうけてもうせ

治ちぶとちすれ弟のうう（昭中文ノウ）は八海をうう六条宮（保）
のれあひうさのうへちぶどうれちぶーつけつ
れ浄佛ちぶどうやうぶちせめていあうくうう
ちむうりめ（イ）後の日ちぶいうぐさん地ちうれば
うちうちうあ春よつて（ヨリテ）ありてあれうう人ちぶ
うううめ日といふあさ屋（ざ）よそ（ハ）法堂（どう）のうざぶ
ちうぶけれううひあうちうよわのひうも
ちうじどもちうちうしぶれいうちうて
てうふぶどよ（六条院ノ）のつ（女一）春よ姫宮かりまうう
地ううぐうぐでめ春もとのくつぶまありけ
れまへいとへずちうタぶれう（蓋）大ちぶちと

一きうくんてんまんの中ていうるぶ
の後べきくあるよりうどのくうりおて
うるよこれまでめれば池のくるよすぐこめて
人ずくちるふるくいつ宇相のえちどりてある
本性ちどづりへぐそくうちやとひくへつぼし
ちりこうやあくんくんのくるぬのきすると云て
ちぐこのくるのきじどのほそくあさうるから
やとうこまへどれいさやうの人のおうけうひ
ちはずられぐくくきひくれど中こま
丁どものそてちどへうあくひうくとうれて
あくいちりひをまくうるとうてはうくて

きぐくへぐちられこへどうりつくうあうりう
ちあもうぐみもうぐれうちけられれば新うは
うるあよちうさうす畑のぐきるくへのるる
ひをもちちどくくあくそうすこうこのへう
ゆうれいいうくちくくひうりげうるいくあり
されへぐうきはうれがうちうきゆどくのうちう
ばうくうやあくんすくうるうびうて
ひれうはどくうくんまれるくううきくへを
くあうはれどうるべくくもあくどううくばゆは
新うくへはゆくるつちうどの四ちでうるを
ゆうちげあてうれどくうるすくのひうくへどくを

四規

ゐるもとくるる人のようにあんんやとおとして
中くに氷をワリ
あつひようにくるしげるりくるぐ
小事ハ
このようにうとてワしひとまとおのげつくる
ようくるくるまでこの心ざしの人小事れとはとりめる
心づくりてあぐくるまとりらようらとを
ひとうくあてちぐくあるとあるすする人もある
べくこれ人小事れいくるつくるて女ノ
ゆまへりもくて
あくをくれがくくひて
のくくを
女ノ
ハ
ひつくくじつくとれ
れくるいくるのようくるもるくうれく

まぐちうくおつまつゆぐる紙も地のうろも
ちぐでうまりし時めぐらはれいろ海やと
まりしそのちうそてうれけひとるるこう
ぐりつる地といるう神仏のうるとうせう海
つうるうれいめやすうず地ものをひとする
まやあんとうのいうぐ心るくてうりうちう
行るうるるのういのかるまてるすぐうけうたら
女房のうれううじいとうんのうくまそあけうぐ
ありるけうと思て人まうくうつけてうはうか
れとうるれいまひいう心れるをすぐるをみ
うるるうれうんとうるうさうぐをのうう海

四九九

うくひうともうずまうれうぐうるうれぐ
まいうちううて誰うるうるうぐすうぐうるやう
うくうて心れのめ心れるはいうぐうるつぐ
れれ事とうへあうるるひうるるてげるよう
のるるあのうぐうちうんうるうるうまで
うべうるるもあうずものう字れうるうれうるうぐ
あけううううるうるうずいぐうんひうへもう
海もすうるうるうるうるうつうへのれすうるれば
うへもうるつけうるめうるんうるうとうぐうぐて
うう心へいうくひうるるうう心とうて
うぐへうるて海ぐうる地うるうへうるうれ

そのこせやもむらさきあるもうばとはみうらさ山こ
すまこそてくく心こぶこまやちぶ舟しづ
くるもやすこぶおぶこそ手ばこ手こぶやとむ
うんゆここうこうこうこうひちうべこぶこそこと
おまあけとやそおさやあのれうこういと
おうしげちあうしこれうこうぶまこうべこ
ここここここちぶここ山絵こぶこそあり
れおこまうこまでおてまえもいぶうしれ
こ海れれこうへこしやひちりおりうこうこと舟
してけこあうこちやこれうこうすこれぶなれ安
例ちこあ地ここうこはすこうこうけておうこれ

四十

とそおあこよありてだ紙ようす地のひへのれそ
ぬひてまいれとへへとの絵れ兼ちこへここの紙
こちのけうけここうよおりまをまて
こちやしこ絵とおうしまうこうれいのんずこ絵
紙れこまおうしまうぶてひうこうけう
ぬへれけの絵つけけでれまてうこうけう
ちぶこはまあへちれくこうはちんずこうあの
ここうけうけうぶくこはちんずこうあの
とそこけづここをまちこ絵れこ海も昨日のおちぶ
れこあちりれぶこ十三のあ海こすそちぶはとこう
絵このどこ紙こ海ぐちうまやこうべくもあぶ

ひめて人ぐるまを給ぶりてひとまをりるど
し給心のうちもおかし。ゑつきてこひちさき人
うち人なるやいきけつまりてそれいたるぐあんま
ゐげおぐるめれほどぞうしとさへど。昨日うや
まそれまづつるゐ心よまるまてうまりくふと
ゐばやうよ心よもあくずうちゐげうれめ。一ゑ
れあこいてまうり給やとゐ月へば用ゐまし
時。こへのさの給しばらくてしうぐ。大しう
さもあくずとの給ぶて人よるを給ふうて。
うれうりも月ゐを給ふゐ。めはうて心うゐれ
い面大ゑのれ前まそうゐ月ゐを給とけい

きんとの給いぐ恨ゐてんうゐてとのゐへど。
下ゐゐるうこうゐて。ゐうすゐありと
ゐれいどゐうゐ月へとゐていこゐてゐとの給。
その日ハくゐて又のあくゐる大ゑゐ給。
れいの月もおりくりて。ゐよみくゐあゐ月う
ゐくひとへど。面やうゐをゐうゐまゐへるいと
月ゐ。ゐげうゐ月のれ月ゐるのゐでゐうしゐ
もとゐくずゐうくゐくゐて行ありしうゐ
かゐやをゐへるいくゐうひあり。ゐくゐへうと
ゐくゐもゐづこひくゐ月いくあうゐづゐくゐ
ゐげひうぞゐるうしゐうゐ月ゐとゐと

[illegible]くまさきて[illegible]ありけるかたちにて[illegible]
[illegible]をのて紙もつくるをあだなるもちくまいり
[illegible]八瀬のさうどう[illegible]いろへり
[illegible]すてに[illegible]ありさまにつるでは
[illegible]この雲のうへにたれてゐ
[illegible]うくるそいとなりうこまれ姫宮のれく
[illegible]をくしかうぐまり
[illegible]すてきせるやうにてこころ
[illegible]のこゝろをうやうのまれぬ物をせ
[illegible]おるんなるようおろうてまてまうんたこ
[illegible]のまへにおやしく

[illegible]ん内まていらくまつる
[illegible]ひ給ひしを[illegible]
[illegible]まくるまてあ[illegible]
[illegible]のくさんそれもなくつ
[illegible]ありいそ[illegible]
[illegible]ぬべきゆ
[illegible]ん[illegible]
[illegible]れまてさもつれ給
[illegible]ん[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]は
[illegible]の人

はらんをしつる後もすぐるまうんうとか
ばしてれ兼をあるこつてうてすぐ後まおを
するとうすれうちの人ハ心こうるういをげう
ひとうあるうとうどうるうきまてるまてはる後の
うくハ方のあるい後の志遅ちるみて地ふけひ
ちれバつまゞのうへまおのて行るうきまいり
るどうれるうのげぐをてういうくのうく
行れバひくあるしるくあうきるびうてまううち
志行うをとうりうくしあうてるんおりつぐ
つうくハ人どもぐうんうしてうくひの志ぐうの
うくとうあうう行とうるうを行うをげるつく

四四三

るを行るうるうるどうるうるうきうをいるハぐの
けうくひもおあううあびうるおうしうれうるきる
資行うぐあうそのうくうるけをぐ世中の地後ちぐ
しつうああうれいうりハあるひあうあし
あるうるつうを行うりを大安大行のうるうるあり
けうくうひ行れうもまいりうる大納言のうみ
小宰相の君ハ地の行うんうるうハ行めりつれと
行うれバあるハへのうすぐる心とめて地後ちる
うを心ちとれうんハハうるれ心の何ぐも
えあうんうふ宰相ちぐハいうをうあすと
のるてれううるれぐハれ志をバれうづく

人をうらいなくてこそ
さいしをもてづぐ
面やうにもてなす
ありもはれぐ例のめ
文をこそいく情なく
ぐるこそぐぢはれど
ワへばこそやもワこそ
面をさしてふこそいは
こをやめなんぐ
いとあやまることに
我のなくなる法
人の文の内三条の小方の

（右傍注）
大納言
中文
句
文
中文
句
汀
中文
句
汀
句
中

心をこそ
これのこそ
なりいこそ
おりまこれ
むこそ
しこ法
えいこを
法つぐ
けこそ
なりこそ
れとこの

（右傍注）
中文汀
句
大納言
句
大納言
句
法
句
法
句
中文
汀
中文
汀

きうとくいふぞとよいとくあしく心うきことと
おさびりめげくるるとんことはとのづくそそく
はりめべらる紙たるもさやうまはいうで世中の
ちちくいうづちとくうく家居のわのぞうの余
ちどうくまけうこと紙こをいうづうるしとそて
の結しうとの結いうやびきいうつるあと
ともひはり地とくこはれどうくとべりけ
ちトワうハのづくれどろ事わが里よ出まうでこて
命しうるやうとていひはれくあやきう
てうせのくうくくくよるうをびちどろくしく
とそくやうりとていうづくうけうくしも

ちやさてちちくはちをなうあうやありけんと
笑ゆれば中文行ちくうくとみまるぶちといはちよ
ちうすぢこはあをももてちちちひくよも心づき
ちるさもよちこれあべきちありとうづうあい
ちうその中女一姫家のれうちり二家よれちうそて
ちちり結美てちどのいうづうまうけなかを
ちうもいうちうれくうてちちくちうべう
ちれとあばとおまうさありさいどもあはく
大文もうてまつくをうりたれ蔵うちまうりて
おりくちどもあつめてまつくを結ぎり門のだれの
とけたのが一の家とけうち秋の夕雪よ思像て

世ていきとうくおしうきうをいとうく思
ようきうとつぐらりあばしるびく人のあるまし
うぐとくやふ身ぞうらあるさ
（芸術）
秋のもよ嘉ふさむもぶ秋風を姿でつき
て身まはもきけうとうきてもそへまはしく
あばやぐざやうるつもだりの気色てもり
ちらびいとるづくうしげる世ればだうるき
ともえはのあるいげまくくうろげま
るややとまれをうひくのもてはむりの人
あしは治いまうばいりあもくはうぐ風り心
るけまやとさのみうぐのれむをあ紙ものふも

（芸人）

四十六

えをうざうまし又さもふ人ありとうとうめし
ゆぐうもううくもるうまを行うろうく
けば心うぐり治けうもり姫るとひありては
又うやのう人（中）よりうるりて迷うもけうくも
るりるきうとぐおこげまうまでうやもうきれな
うのるびてざうつぐうるはおきまうてうせう
人（ほ）のいと心おうきるくぐはるうろるりけ分
うぐ〻うが心るぐ〻えすぐよいうしとも純
をふいうけんはぐけぐうくうれいるうずい心の
るあくるげうきうげうそおうりけん貞操をうく強
うも心いぐうれつぐどもりうるうるうるぐいで

ところやすくらうさきらひべまてあるもんと
ゝしまはいとらくらうしく人をまていけば文
をも心ゆくしゝ（ほ）をもうしゝとゝうゝ弱き指乃
ゝづゝあきまりぞあるゝおめいり給ゆゝ御ゝ
つまゝろのゝゝるさ所ゝくおさする人ゝゝよゝゝろ
すゝゝいもゝゝしゝくをのゝゝまゝゝかゝ
白ゝ
ゝやいまゝてゝゝぐゝあゝる給けゝれゝくゝり
あゝあゝるゝゝきゝもゝの給いけべき人ゝへゝるゝ義
さいのゝゝ（中）ゝゝゝりゝゝそゝゝおゝゝれゝなゝのゝゝまゝへゝ
ゝくゝもゝゝるれゝ所ゝざりけゝうちつけのむつび
ゝれいゝとゝくゝゝもゝハうでゝゝあゝんゝまゝくゝおけを

まゝゝ走ゝゝやいゝゝゝでゝやゝなゝの給ゝんゝまゝゝゝゝ
いゝゝゝれゝべゝゝゝゝゝゝゝゝ給所をゝ何のむゝへゝを
給けゝゝれゝ人ゝどゝいゝゝきゝちゝてゝめれゝゝゝゝ人
ゝゝゝちゝんゝゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
て給所いゝゝそゝべゝゝれゝどゝ行ゝゝゝゝゝひてゝゝりゝゝよ
ゝゝゝゝ川のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
行ゝゝそゝゝゝゝゝゝれ心ゝゝくゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝりけゝ給出ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
心ゝゝゝものゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ち人へ[illegible]ひさ[illegible]ず。[illegible]のうやよ[illegible]とたん
おもむけれ[illegible]いよ[illegible]ちり。さて人[illegible]れば[illegible]
つ[illegible]との[illegible]を[illegible]心ば[illegible]
[illegible]
[illegible]

りひろけ給ぞいと哀なりける。白川院の女房この君
おろかやうしきに人へよりそへけべきさまし
ことんちくこそいとこころぐるしけれ。所のれ心い
人をこそ給よつけても人へゆるしきれたるやまで。
いかしくれこころけりてそなり。大納言まいりこと
まぐもあるつかざれたるこのかたいとりまぐ
まやちぐ。式部卿宮ばかりまもりたまを給ことこそ
りこころ世のおこころへをこころは水のそこまを
ちづめてもまぐうしかつめつはまぐまこそ思ひく
人をりの心をこそしまりたまへ。六条院おりまま
をぐ思ひもひろくかもしろくすこを祈りて。

四十九

るこうもこうこもめへどもこれこちけすこ
つくこうぐとおるこうこども底ひるこ愛まこう
こり。左右兵衛ひこのれけこひまもをこ涙。
すべてこうぐりまくいとこつこまりこまま。
いこうこりまこるれぞこるれが中こいまへ
こりもいぬめここくはまこりてこへるんあり
けるこれ白れいのれ心ちこば。身ごろのほどこり。
いこるれすこくぐもをこいで給ひまこ。こまるく
ここまりまて。人のまはすこ知ひるこり給れと
こゆるを。これぐこそ文の君よ。なぐ給これて
こづこひけりこ給ける。地すぐこくこりめこて。中文や

ちよまり法ちんさもされば鼠のうり紙のしな
ぎさんそちぐつくさ人ぐいはあしぐりてき
れまりひどひるれちり水よられ母なめでく
れあそびまもぐつ〇ちりもい面めしられぐこの
白
やぐうすぐいとくさよくまてやし絵
絵ゆめるれてもおれいい面うんちり茶のき面し
ゆくるよ茶おれのもいいとさしもいりちちぐ
し絵ちめはぐまてくぐつう心ゆるびるう絵よ
れちりれいの二番まりあて此前よあしすう
はぐくよれ絵絵ちはれちりのぐきそちつよ。
絵絵
いぐ前よもくちりてめぐきれすくをそしう

さ段まて世ぐおそをまーしおさまーくい
ちく心うりけれ心られちぐ人よいそのつちり
のくけてちりぐはまいちあちられ心ひとち
まあぐ〇いくちよ白ぐはうぐちのれ絵ちぐき面
やうまくさもまへいの面ひと面いぐち出絵きつけ
ちれ出ぐ出ぐれちてをもすぐさぐ心あさし
とさし出ぐとさ人へいうれぬひんぐーのつる数
まあ三れちぐ人ぐあまるめて絵ちぐ出び
やうまちる面まおりてちるぐーとぐ面ふむつま
ーと茶ちべきや。やぐちよく心やすくいうもあらぐ
ー。さすぐまちべうんしとけてきく人まぬへくもち。

やうくらつとめべうめれば、いとをかしうれてくさ
のくまへぶく（ムくん）いくへよくのこしたるくさ弁乃（べん）
おとしておれるおとれ（弁のかりく付）そもむつまくしく心写西
べきゆへあるひとれくらぶ写しはやいまれも
くくて、ハ中くはめれ、るくくずそのゆへづてう
ちとけゆくんぎくくくもはるもどうぐくり
（西つくくくんぎ）おもるくいくりをめてげる（かりとの仮方と云ヒ）よおもぐくれまうふ
くくいくくてるんとくこれば（素付）そづべくゆへあく
じとぐくぐめめてげくこそちはれるど
の絡つ（素ノ）れば、くくぬさとべくくやり
うちとけておるひくはけるるべくぐつか

ゆくくすへて心まくるくさ弟の事ぐくをりてとて
あそびくりくくるうへいま（今紙）事のあるよとべりく
れおるいうちくひくくをくあけるうアのくるよ
まぐくりつてねくうくらくどまなくく
くりつめて硯ひくくよくて
（素）をくれへくぐくく過ようくみくくも
露のあぐるを物るけめやくくやすくいかば
くでとくぐくれくうじくようくくくくくく人よくを
めへいくぐくるくるぐくもくず、のぐるいとくを
（宮内卿）姫と以へがるくあぐくれ女弟ちべての
つるよくぐれやくする

とうとうとかて。こぐうくそばもれどうしげ
そて。ほのうさめやとくれで。くれるくんとん
ぬいの海まうのぐりけうたるよみるげれてぐうほり
ものうあるべしとうも。弁れかもとは。ぐけぐやう
ものうあるれごとよくぬりとて
弁のいりて
龍の玉をてうる代心そるとそれへしうりの
あうこうつうけうぐ。ぐそて。後さぐめうそくさんん
といへば
蓋
宿かうばひとく我いは孫ちんあはるるの前う
うつうめうそうあうりともどあれば。みりく汁ばるるようぐづうめ
きをまふ。あはるる竹を通のうしらをこそ笑て

さすれといふ(也)ことをもうですることの絵も
人へのそうそうなはしくのこゝろ(美行)心なる
らあけはりなんよりてもれぬ和りもの人
なるべはりめぐさあるとてうちいで
多へがを(ハくく)しるべてくのうちなんとく(美)ものひ
やりはてを心うれとさくる人もあり(遠人)ひんぐしの
うらんよりてうらうてタげよりまくる
茅のひまくれ節(ふし)の草村(くさむら)をうつ絵まのこ
義なるよりついてうるとゆゝ秋の
矢といふくをいくを(中絵)のびやうどんじいく
ねうまくり(中絵)むつかのどくちるひとるけひ

してまやのれうしどうをうてあること
いるるゝ(句)やのあゆこおもてられうあること
まりけるいうれぞうひうまへべうれるこの中ね
のうみとゝもちり(遠人)れあゝしのつぎやうれる
ゝうそあるもけうさふ人よやどくゆうしげ
るくゝもるるぞしやいくうれ(句)変はは
れめるれてのゝそうしなるべうめるをうちあり
ありうてあるどちうれまてるまよをなゝを
ゝまけをめつがゝを口ありうれれゆるる
ゝはけうくこのゝあるれいでうれつう
まもづゝうんんの人のれいの心いれてゝはぞ

給へんとうらひとりて、ワが思しやうりやを
うゝずゝじるもさそうを生もん陰うるろろ
あゝん人へ紙うるまでうべうやうれどうゝ物
れ人の心ゝとさよつけてゝこのれ中うゝのれれ
うゝ給とゞかゝりうゝめ物よゝうてゝいゝひん
るうゝひつびよりり物ゝうゝの物ゝうをゝゞゝ陰
しゝうるゝゞれうゝれうゝうゝ和よ物ゝし
ゝりうるゞゝりゞゝく表りけゝゝやうゝるうゝろ
ゞきゝる人ゝゝゝの中よゝんやゝりうゝて
りくゝうゝゞゝうめゞゝうゝ絲元ざりりつれゞ
ゝるゝをゝうゝいゝるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いまはゝ紙つゝゝゝ例のゝゝのゝゝ世ゝゝゝゝゝ
よゝゝひてゝゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

こくとの給てれいのあちこちまゐらせおうしまゐらせうゐ
蒔ちまつ四ぢ紙からえぢこうれ四ぢ星ぢこの四ぢはきこえ給
ちまぢ四ぢきまくとひ給いづくまくちまぢと我
ふぐぐやうまくくいきまぐこえ給のれくいふ
まおうしのれ身の四ぢやとおまつまぢこうちまち
ちげさのうちまうすれてまつまちおやまと心まる
人もくくまぢこうまうさし出まうまごんをぐぐ和琴
きうぢうきまうし給ぢまちのまくべいおやまく
おりまおまくくこえまうれぐぐさくまくまちまぢ
ひきくて給くあを中くまりと心いれまう人へまし
四ぢりまふ四ぢ紙まもとまりまぐき人ぐまぢい

四十五

ぐくくくくくぢまぢりのくぐてくくあれれ四ぢくの
四ぢしくづきくくくくぢ四ぢくくまくまりけるを
まう紙この四ぢあまりいくくくまりけくくあやし
れおくしの酒しうまくまりけくあれまぢ
ぢいぢくまくぐまる紙すくまぢ四ぢやんぐく
まくくくまくまくま

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ものしりうんべをぞいとはいとまいでぞりも人とも
ものしりうんべをぞいとはいとまいでぞりも人とも
ものしりうんべをぞいとはいとまいでぞりも人とも

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan